

まつど宇宙の学校4回目活動レポート



エアドームの移動式プラネタリウム。

の元気な歓声が響き、束の間の宇宙旅行を

飛びタネは、横山三郎さんと中村淳一さんが担当です。最初に本物の飛びタネ「アルソミトラ」を見せて飛び仕組みを説明します。次に、型紙を使って薄い発泡スチロールをアルソミトラと同じ形に切り出し、種の位置に小さなコルクの塊をつけます。手を高く上げて離すとふわふわと飛び様子に歓声があがります。カーブをつけてみたり、種の位置を調整したり、余った材料で他の形にチャレンジしたりと、工夫や実験が沢山できるよい体験となりました。



早足で凧上げ、体がぽかぽか温まりました。

3つのプログラムのまとめのお話しのあと、宇宙の学校 OB 篠田尚央君が、ドレミバイブ（3回目に製作）でディズニーソングを、さらに筒の長さで音程をかえるトロンボーンでパプリカを演奏してくれました。修了式では、実験レポート提出者2名と内容を紹介し、その出来栄えを皆で称えました。そして、修了証を授与し、ku-ma（子ども・宇宙・未来の会）元理事の古川章博さんが挨拶、来年度の計画をお話しして、今年度も無事に、「まつど宇宙の学校」が修了しました。

2月2日（日）松戸市青少年会館にて、「プラネタリウム～月へGO&飛ぶタネとミニ凧」をテーマに、児童を3班に分け、3つのプログラムを、25分間交代で体験しました。児童25名と保護者、付添児童で約60名の参加です。

昨年に引き続き、岩上洋子さん製作の移動式プラネタリウムがやってきました。直径3mのエアドームに、専用のプロジェクターで星空を映しだします。時折、子ども達

満喫している様子がわかりました。



形を工夫して飛び方を観察。

凧作りは、古川章博さんが担当です。発泡スチロールの薄い板に、凧糸、スズランテープの足をつけ、10分程度で完成です。発泡スチロールと凧糸をセロテープで止めるため壊れやすく、歩いて凧上げをしても凧は上がるよと指導しましたが子供達にはちょっと発散不足だったようです。それでも少しの早足で高く上るのは不思議な体験だったようです。

